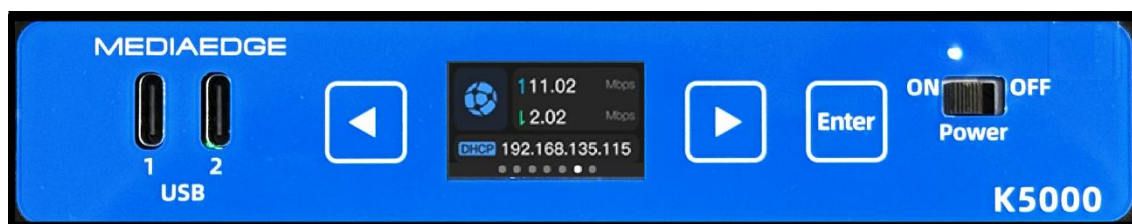


MEDIAEDGE

K5000

取扱説明書



2026 年 9 月 1 日

第 1.01 版

1.25.0012.0413

Copyright (C) 2026 MEDIAEDGE Corporation

目次

1. はじめに	4
1.1. 本製品を使用される際の注意事項	4
1.2. 商標について	6
1.3. 警告	6
2. ご使用の前に	6
2.1. パッケージ内容の確認	6
2.1.1. MEDIAEDGE K5000 同梱物	6
2.2. 当社ホームページについて	7
2.3. 本製品の設定に必要な資料とファームウェアの入手先	7
2.4. ファームウェアのバージョンについて	7
3. 留意事項	7
3.1. 表記について	7
3.2. ご注意	7
3.3. 制限事項	7
3.4. 使用許諾について	8
4. 製品仕様	9
4.1. 製品の概要	9
4.2. 製品の特長	9
4.2.1. 高性能ビデオエンコーダ（最大 4 本同時エンコード）	9
4.2.2. 高性能オーディオエンコーダ（4 チャンネル対応）	9
4.2.3. 強力なストリーミング（※最大 8 本同時配信）	9
4.2.4. 多彩な機能	10
5. 概略構造	11
6. 各部の名称	12
7. ハードウェア仕様	13
8. 操作説明	16
8.1. LCD パネル	16
8.1.1. SYSTEM(LCD パネル)	16
8.1.2. HDMI 情報 (LCD パネル)	19
8.1.3. SDI 情報 (LCD パネル)	19
8.1.4. USB 情報 (LCD パネル)	19
8.1.5. 音声レベル表示 (LCD パネル)	19
8.1.6. ネットワーク設定 (LCD パネル)	19
9. Web コンソール	21
9.1. ログイン	21
9.1.1. IP アドレスの確認	21

9.1.2. ブラウザからログイン	21
9.2. ホーム画面	23
9.3. 入力選択	23
9.4. プレビューウィンドウ.....	24
9.4.1. プレビューウィンドウの操作.....	24
9.4.2. オーバーレイウィンドウの操作.....	25
9.4.3. オーバーレイ素材の追加.....	25
9.4.4. 画像の管理	25
9.5. エンコーダ設定ウィンドウ.....	26
9.5.1. ビデオエンコーダウィンドウ	26
9.5.2. オーディオエンコーダ	30
9.6. 状態表示ウィンドウ.....	33
9.7. ストリームサービスウィンドウ.....	33
9.7.1. Ping	33
9.7.2. メディアユーザー管理.....	34
9.7.3. ストリーミングサービスの追加・変更	34
9.8. タイトルバー	45
9.9. 設定	45
9.9.1. 基本設定	45
9.9.2. ネットワーク設定.....	46
9.9.3. ユーザー管理.....	51
9.9.4. NDI 設定	52
9.9.5. 時刻とタイムゾーン	53
9.9.6. Onvif サービス	54
9.9.7. EDID 設定	56
9.9.8. 無信号画面と一括設定	57
9.9.9. システム設定	60
9.9.10. ログ.....	62
10. 保証.....	63
10.1. 保証規定	63
11. 修理のご依頼について	64
11.1. システムや製品を「販売店」から納めさせていただいた場合.....	64
11.2. システムや製品を「当社」から納めさせていただいた場合、その他の場合	64

1. はじめに

1.1. 本製品を使用される際の注意事項

ここでは、本製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、下記のお問い合わせページよりお問い合わせください。

<https://www.mediaedge.co.jp/support/inquiry>

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。コードの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードを折り曲げたり、加工したりしないでください。AC アダプターを抜くときは、プラグ部分を持ってください。コードが傷んだら、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまで交換をご依頼ください。

分解しない

ケースを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はお買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご依頼ください。

ほこりや湿気の多い場所で使用しない

ショートや発熱が起こり、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

雷が鳴り出したら使わない

本体や、プラグには触れないでください。感電の原因となります。

めれた手で AC アダプターを触らない

めれた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

直射日光の当たる場所に置かない

日光の当たる場所や熱器具のそばに置かないでください。火災や製品の故障の原因となります。

煙が出た状態で使用しない

煙が出る、異臭がするなどの異常状態で使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。

異常が発生したら、本体の電源を切り、電源プラグを抜いて、煙が消えたのを確認してから、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

製品が破損した状態で使用しない

本製品を落としたり、カバーを破損した状態のまま使用したりしないでください。火災や製品の故障の原因となります。製品が破損した場合は、本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。



不安定な場所に置かない

不安定な台の上や傾いたところに置かないでください。落下するおそれがあり、けがをしたり、製品の故障の原因となります。電源コードや AV ケーブルは整理して配置してください。足にひっかけると、けがや製品の故障の原因となります。



お手入れの際は電源を切る

接続するときやお手入れの際は、電源コードを抜いてください。感電や製品の故障の原因となります。お手入れの際は、シンナーなどの揮発性の溶剤を使用しないでください。長期間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。



付属の AC アダプタ以外は使用しない

付属の AC アダプター以外の製品を使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。



本体を布などで覆わない

風通しの悪い場所や布などで覆った状態で使用しないでください。通風孔がふさがれると内部に熱がこもって、火災や製品の故障の原因となります。

■注意事項

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。

製品本来の使用目的及び、当社が推奨する使用環境以外での本製品の動作保証は、一切いたしかねます

■個人情報の取扱について

当社では、お客様の個人情報は原則として下記の目的以外では使用いたしません。

● ご利用の当社製品のサポートの実施

当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施。

※ 調査結果につきましては、お客様の個人情報を含まない形で当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがあります。

- 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認。
- ハードウェア/ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供。
- 懸賞企画等で当選されたお客様への賞品の発送。

事前にお客様のご了承を得た上で、上記以外の目的で使用させていただく場合があります。

当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはありません。

お客様の個人情報の取扱いに関するお問い合わせ、ご意見は

<http://www.mediaedge.co.jp>

まで、ご連絡ください。

1.2. 商標について

- ① MEDIAEDGE は、メディアエッジ株式会社の登録商標です。
- ② HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- ③ その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。
- ④ NDI は Vizrt NDI AB の登録商標です。

1.3. 警告

● 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターおよびテレビ画面に表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にめまい・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでにされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

● 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

2. ご使用の前に

2.1. パッケージ内容の確認

MEDIAEDGE K5000 の同梱物を確認してください。製品の梱包には万全を期しておりますが、万一不足しているものがありましたら、ご購入いただきました販売店もしくはカスタマーサポートまでご連絡ください。

2.1.1. MEDIAEDGE K5000 同梱物

Encoder K5000 本体×1

AC アダプター×1

カメラ取り付け用シューアダプタ ×1

USB C-A 変換ケーブル （将来の拡張用）×1

クイックスタートガイド/保証規定 ×1

※本書（取扱説明書）は当社ホームページからダウンロードできます。

2.2. 当社ホームページについて

当社の最新情報をホームページ（<https://www.mediaedge.co.jp>）にて発信しています。
最新のドライバー、ユーティリティ、製品マニュアル、FAQなどを公開していますので、当社ホームページに是非アクセスいただきご活用ください。

2.3. 本製品の設定に必要な資料とファームウェアの入手先

www.mediaedge.co.jp の MEDIAEDGE K5000 製品ページよりダウンロード願います。
MEDIAEDGE K5000 取扱説明書

2.4. ファームウェアのバージョンについて

本書では MEDIAEDGE K5000 のファームウェア(ソフトウェア)バージョン 1.25.0012.0413 での操作の方法を説明しています。

3. 留意事項

3.1. 表記について

本書の説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
説明の便宜上、実際の製品とイラストおよび画面写真が異なる場合があります。

3.2. ご注意

本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
運用した結果については、上記内容にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。

3.3. 制限事項

本製品は、無停止システム仕様ではありません。機器の安定性を保つため、1年に1度以上の定期的な再起動が必要です。

※全てのシステムで、1 年以上の連続稼働を保証するものではありません。

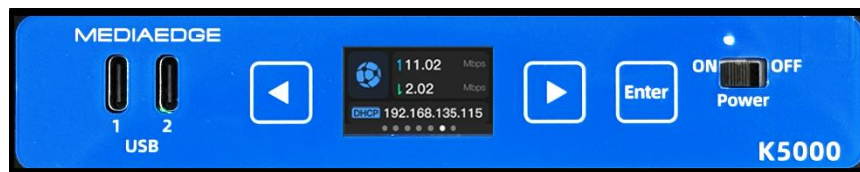
※配信するプロトコルや設定・ストリーム本数により、1 年よりも短い間隔での再起動の実施が必要になる場合があります。

3.4. 使用許諾について

本製品は、搭載するソフトウェアの一部に GNU 一般公衆利用許諾（GNU General Public License、以下「GPL」と呼ぶ）または GNU 劣等一般公衆利用許諾（GNU Lesser General Public License、以下「LGPL」と呼ぶ）に該当するフリーソフトウェアとその他のオープンソースライセンスに基づくオープンソースソフトウェアを利用しています。 GPL/LGPL 該当のソフトウェアのリスト、ソースコードの請求、および本件に関する質問はメディアエッジ株式会社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

4. 製品仕様

製品名称	H.264, H.265 対応ビデオエンコーダ MEDIAEDGE K5000	
モデル	1 年保証モデル	5 年保証モデル
型番	ME-ENC-K5000	ME-ENC-K5000-Y5
JAN コード	4562393843290	4562393843306



4.1. 製品の概要

本製品は 4K30p-HDMI、3G-SDI の 2 つの映像入力端子を持ち、同時に H.264 や H.265 形式にエンコードが可能。エンコードされたデータは NDI-HX2/NDI-HX3、SRT、RTMP、RTSP 等のストリーム形式で、最大 8 ストリームまで同時配信が可能な高性能ビデオエンコーダです。

4.2. 製品の特長

4.2.1. 高性能ビデオエンコーダ（最大 4 本同時エンコード）

HDMI-Main, HDMI-Sub, SDI-Main, SDI-Sub の 4 本のビデオエンコーダで H.264、H.265 の形式にエンコードが可能です。

（Main と Sub は同じ画像入力を使用しますが異なる解像度で使用できます）

4.2.2. 高性能オーディオエンコーダ（4 チャンネル対応）

SDI、HDMI、Line-in それぞれのオーディオ入力信号を、AAC、G711 の形式でエンコードが可能です。4 チャンネルオーディオのエンコードに対応します。

4.2.3. 強力なストリーミング（※最大 8 本同時配信）

ビデオ、オーディオのエンコードデータを、NDI-HX、SRT、RTMP/RTMPS、HLS、TS-UDP、RTP、RTSP など、多彩なプロトコルで配信可能です。

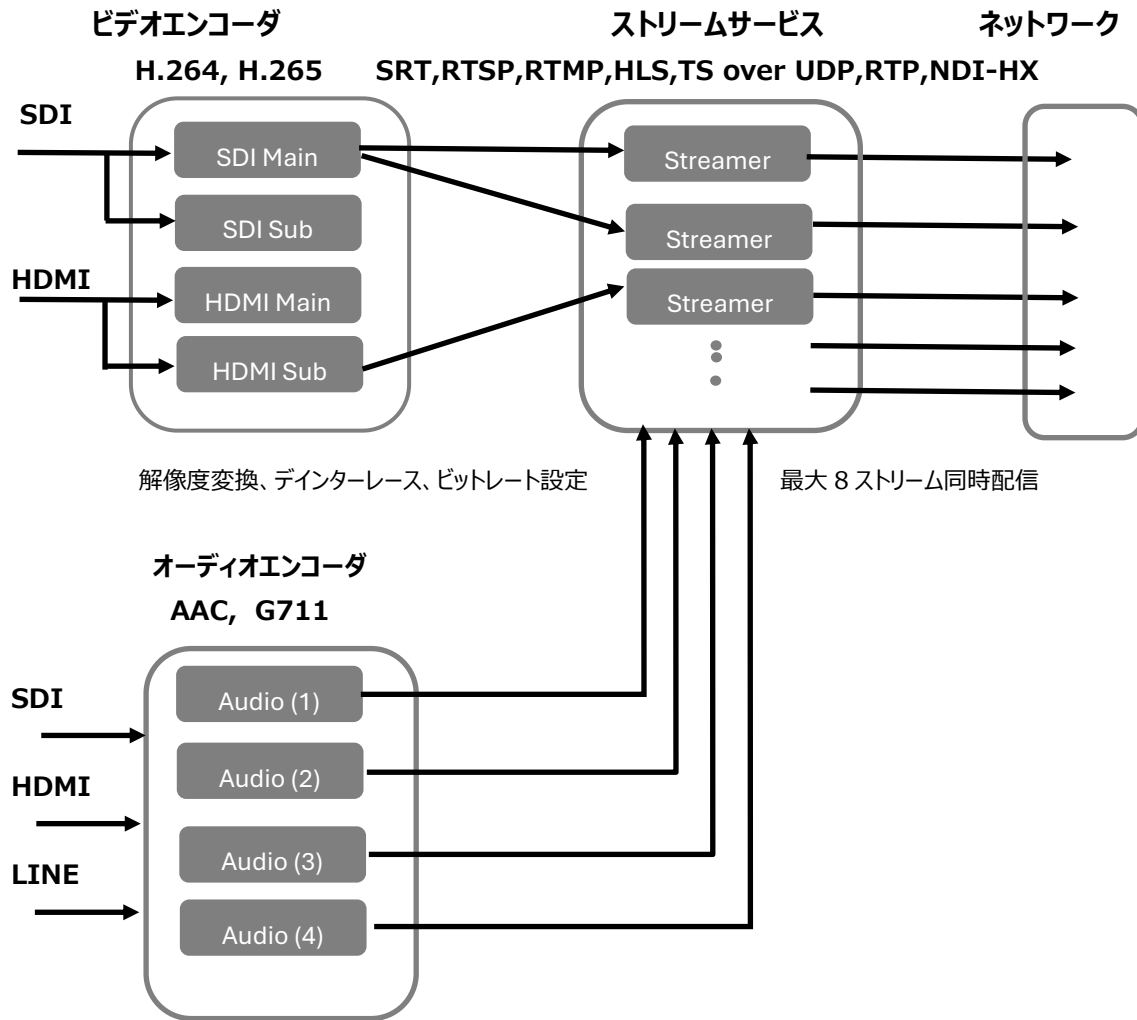
※最大同時エンコード、配信本数は解像度やビットレートなどの条件によって制限を受けます。

例）HDMI で 4K 解像度を使用時は性能上の理由で SDI のエンコード、配信は行えません。

4.2.4. 多彩な機能

LCD パネル	LCD パネルとタッチスイッチで IP アドレス等の表示、設定ができます
Loop 出力	SDI、HDMI の Loop 出力端子を持ちます。 電源 OFF 時に出力はできません。
PoE	イーサネットから電源を供給することが出来ます (802.3af class3)
OSD	時間やテキスト、画像データなどを画面に重ねてエンコードを行う事ができます
画像の回転、反転	入力映像の回転、反転ができます
インターレース プログレッシブ変換	59.94i 等のインターレース信号は 59.94p 又は 29.97p に変換されます (インターレース形式のストリームは生成できません)
プレビュー	強力なプレビュー機能で配信中の映像、音量を確認できます
Ping 機能	接続されたネットワーク機器に Ping を実行することが出来ます

5. 概略構造



オーディオ入力、サンプルレート、ビットレート設定

6. 各部の名称

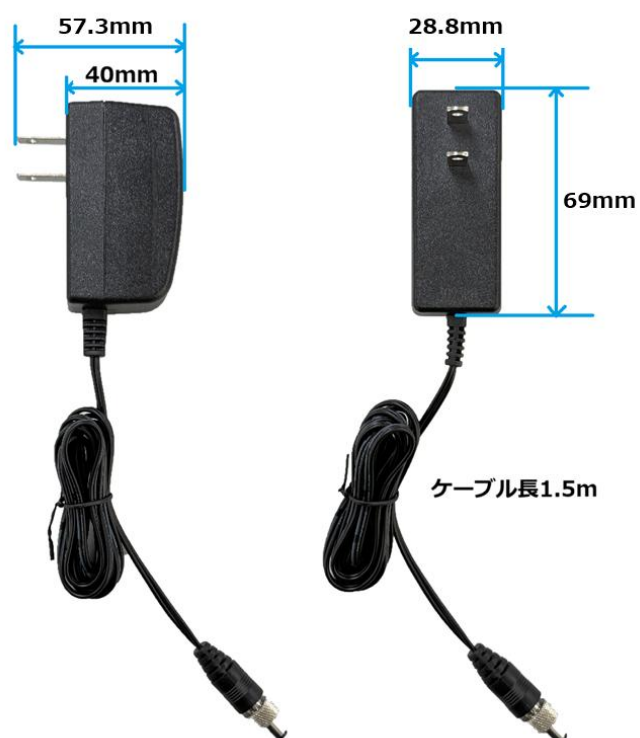


1. 電源端子	付属の電源アダプタを接続します（PoE 使用時は不要）
2. オーディオ入力	ライン音声入力端子（3.5mm ステレオ）
3. USB 端子 TYPE-A	将来の拡張用です（他の機器の充電には使用しないでください）
4. SDI Loop 出力	SDI のループ出力端子です（電源 OFF 時に出力は出ません）
5. SDI 入力	3 G-SDI 入力端子です
6. HDMI Loop 出力	HDMI のループ出力端子です（電源 OFF 時に出力は出ません）
7. HDMI 入力	HDMI 入力端子です
8. イーサネット	1000base-T のイーサネット端子です IEEE803.3af の PoE に対応しています
9. USB 端子 TYPE-C	将来の拡張用です（他の機器の充電には使用しないでください）
10. USB 端子 TYPE-C	将来の拡張用です（他の機器の充電には使用しないでください）
11. LCD パネル	IP アドレス等の表示や設定に使用します
12. 電源スイッチ	電源の ON/OFF のスイッチです
13. 電源 LED	電源 ON 時に点灯します

7. ハードウェア仕様

製品名	H.264, H.265 対応ビデオエンコーダ MEDIAEDGE K5000
映像入力端子	3G-SDI HDMI 4K30P
映像出力端子	3G-SDI (LOOP OUT) HDMI 4K30P (LOOP OUT)
音声入力	4 channel SDI インベデッド audio 4 channel HDMI インベデッド audio (非圧縮) 3.5mm ラインイン
USB インターフェース	USB 2.0 Type-C x2 USB 2.0 Type-A x1
ネットワーク インターフェース	10M/100M/1000M RJ45 イーサネット PoE サポート (802.3af クラス 3)
ストリーミング形式	NDI HX2/NDI HX3/SRT/RTSP/RTMP/RTMPS/HLS/TS over UDP/RTP
映像入出力	HDMI 入力および LOOP OUT 3840x2160p 30fps 1920x1080p 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60fps 1920x1080i 50/59.94/60fps 1280x720p 25/29.97/30/50/59.94/60fps 720x576i 50fps (PAL SD) 720x480i 59.94fps (NTSC SD) SDI 入力および LOOP OUT 1920x1080p 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60fps 1920x1080i 50/59.94/60fps 1280x720p 25/29.97/30/50/59.94/60fps 720x576i 50fps (PAL SD) 720x480i 59.94fps (NTSC SD)
エンコード解像度	MAIN 3840x1920(16:9) HDMI のみ、(SDI の同時使用不可) 1920x1080(16:9), 1280x720(16:9), 1024x576(16:9), 800x600(4:3), 960x540(16:9), 720x576(PAL), 720x480(NTSC) Sub

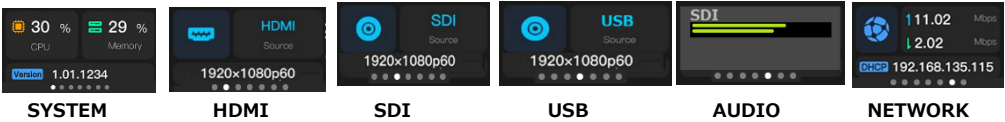
	1280x720(16:9),1024x576(16:9),800x600(4:3), 960x540(16:9),720x576(PAL),720x480(NTSC),640x360(16:9)
エンコード フレームレート	フル：入力信号のフレームレートのまま 半分：入力信号の半分のフレームレート（元フレームレートが 50FPS 以上） カスタム：1 FPS 単位（入力信号には非同期）
ビデオ エンコード形式	H.264(AVC) High profile, Main Profile, Baseline Profile H.265(HEVC) Main Profile Motion JPEG（Sub ストリームのみ）
オーディオ エンコード形式	AAC G.711
設定環境	Web ブラウザにより設定（Chrome を推奨）
本体外形寸法 質量	140(W)x100(D)x28(H)mm（端子、突起物を除く） 405g（本体のみ）
動作温度 動作湿度	0℃~40℃ 20~90%RH（結露しないこと）
AC アダプター	AC 100 ~ 240 V,50/60Hz DC 12V 最大 1A PSE 対応 70(L) x 29.8(W) * 58.3(H) mm、ケーブル 1.5m、86g



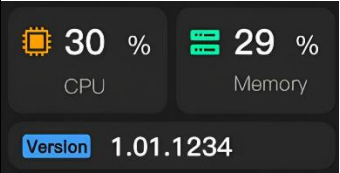
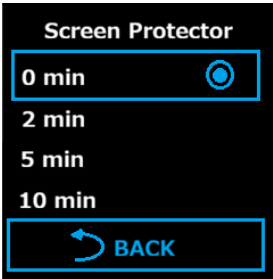
8. 操作説明

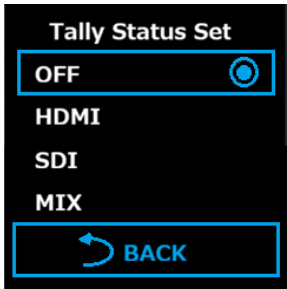
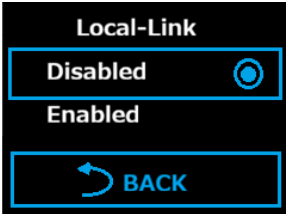
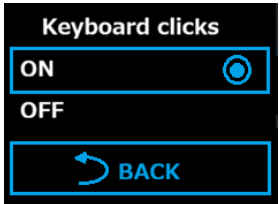
8.1. LCD パネル

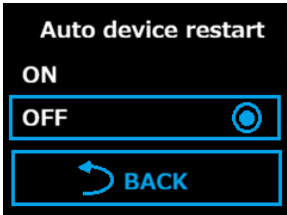
フロントパネルの LCD とタッチボタンで IP アドレス等の表示や設定を行うことができます。



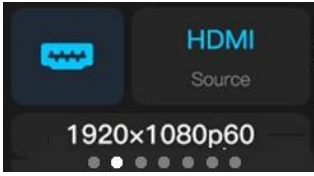
8.1.1. SYSTEM(LCD パネル)

	システム情報が表示されます CPU 使用率 メモリ使用率 ファームウェアバージョン情報  を押すと下のネットワーク設定に移行します。
	Screen Protector 最後の操作から LCD パネルを消灯させるまでの時間（分）を設定します。 0 min を選択すると常時点灯になります。   で設定値を選択し  で設定します。   で BACK を選択し  で上の階層に戻ります。

	Tally Status Set 将来の拡張用です OFF で使用します。 ◀▶ で BACK を選択し  で上の階層に戻ります
	Local – link メンテナンス用の IP アドレスの Disabled/Enabled を設定します。 IP アドレスは あらかじめ Web コンソールで設定しておきます。 デフォルトは 192.168.1.168 です ◀▶ で設定値を選択し  で設定します。 ◀▶ で BACK を選択し  で上の階層に戻ります。
	Restore Factory 全ての設定を工場出荷時の状態に戻し、再起動します。再起動が終了して LCD に表示が出るまでは決して電源を切らないでください。 ◀▶ で V OK か X CANCEL を選びます。（青色が選択） X CANCL を選択し  を押すと上の画面に戻ります。 ◀▶ で V OK を選択し  を押すと再起動が始まります。
	REBOOT システムの再起動を行います。（設定は保持されます）再起動が終了して LCD に表示が出るまでは決して電源を切らないでください。 ◀▶ で V OK か X CANCEL を選びます。（青色が選択） X CANCL を選択し  を押すと上の画面に戻ります。 ◀▶ で V OK を選択し  を押すと再起動が始まります。
	Keyboard clicks タッチキーを押したときの音 “ピッピッ”の ON/OFF を設定します。 ◀▶ で ON か OFF を選択します。(OFF で音が消えます) ◀▶ で BACK を選択し  で上の階層に戻ります。

	Auto device restart 自動再起動の ON/OFF を設定します。 自動再起動の間隔等の設定は Web コンソールで行います。 ◀▶ で ON か OFF を選択し Enter で設定します。 ◀▶ で BACK を選択し Enter で上の階層に戻ります。
---	--

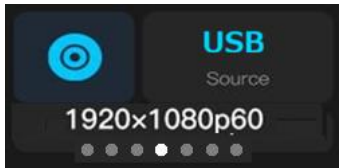
8.1.2. HDMI 情報 (LCD パネル)

	解像度、フレームレート情報が表示されます。
---	------------------------------

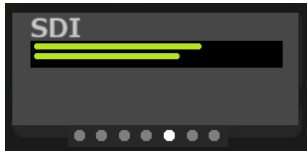
8.1.3. SDI 情報 (LCD パネル)

	解像度、フレームレート情報が表示されます。
---	------------------------------

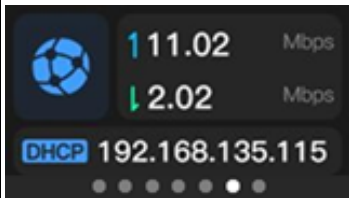
8.1.4. USB 情報 (LCD パネル)

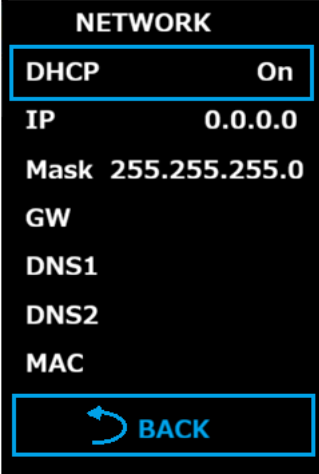
	将来の拡張用
--	---------------

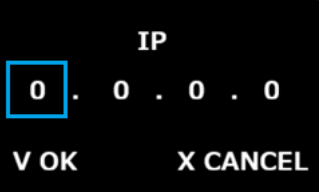
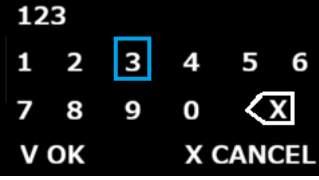
8.1.5. 音声レベル表示 (LCD パネル)

	ON になっている信号入力の音声レベルが表示されます
---	-----------------------------------

8.1.6. ネットワーク設定 (LCD パネル)

	↑送信ビットレート ↓受信ビットレート [DHCP] 動的 IP アドレス [STATIC] 固定 IP アドレス  を押すとネットワーク設定に移行します。
---	---

	NETWORK ネットワーク接続時の通信設定を行います。 DHCP の On/Off は  を押すと変更されます。 DHCP が On の場合（動的 IP アドレス使用時）は他の項目の設定はできません。 MAC アドレスは設定はできません。（表示のみ） DHCP が Off の場合（固定 IP アドレス使用時）に IP アドレス等の設定が出来ます。   で BACK を選択し  で上の階層に戻ります。
---	--

	IP アドレスの設定   で IP アドレスの桁を選択し  を押すと数値入力画面に移行します。   で V OK か X CANCEL を選びます。（青色が選択）  を押すと上の階層に戻ります。
	数値入力   で数値を選んで  を押すと数値が更新されます。 V OK を選択して  を押すと数値が反映されて上の階層に移行します。 X CANCEL を選択して  を押すと数値が反映されずに上の階層に移行します。 初期値として 0 が入力されている場合は書き換える前に （バックスペース）を選択し  を押して数値を消しておく必要があります。

9. WEB コンソール

9.1. ログイン

9.1.1. IP アドレスの確認

LCD パネルのネットワーク設定から、本機の IP アドレスを確認/設定します。

9.1.2. ブラウザからログイン

K5000 と同じネットワークに接続した PC のブラウザのアドレスバーに IP アドレスを入力すると Login 画面が開きます。

注：ブラウザには Chrome か Edge をご使用願います。



工場出荷時設定では ユーザー名：admin パスワード：admin です。

設定等に使用する言語を選択します。

「パスワードを保存する」にチェックを入れると次回ログイン時のパスワード入力が省略されます。



初回のログイン時には新しいパスワードの入力（admin からの変更）が必要になります。

Admin ユーザーのパスワードを変更

* ユーザー名

* 元のパスワード

* 新しいパスワード

パスワードの強度 弱い 真ん中 強力な

大文字と小文字 + 数字 + 記号の組み合わせを使用することをお勧めします

* 再入力

戻る 適用してログインに戻る 適用してシステムに入る

工場出荷時のパスワード admin を新しいパスワードに設定します。

[戻る] 新パスワードを設定せずにログイン画面に戻ります。

[適用してログインに戻る] 新パスワードを設定してログイン画面に戻ります。

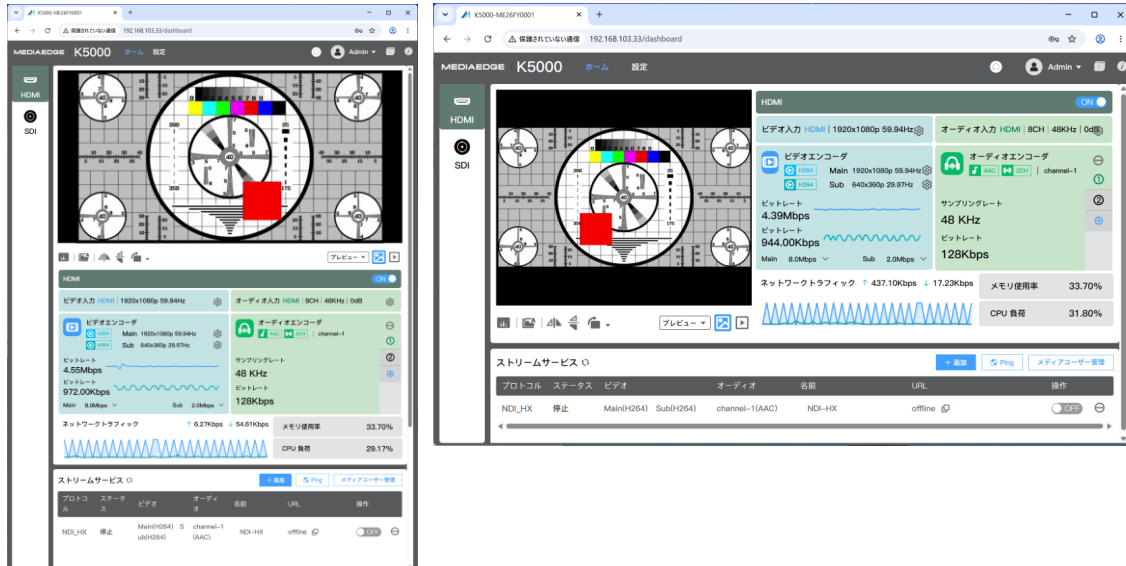
[申請してシステムに入る] 新パスワードを設定して Web コンソールを開きます。

注：エラーが出てログインできない場合

ブラウザの履歴を消去するとログインが可能になる場合があります。

9.2. ホーム画面

本機ではブラウザの表示幅によって操作画面の配置が変わり、柔軟に操作を行う事ができます。

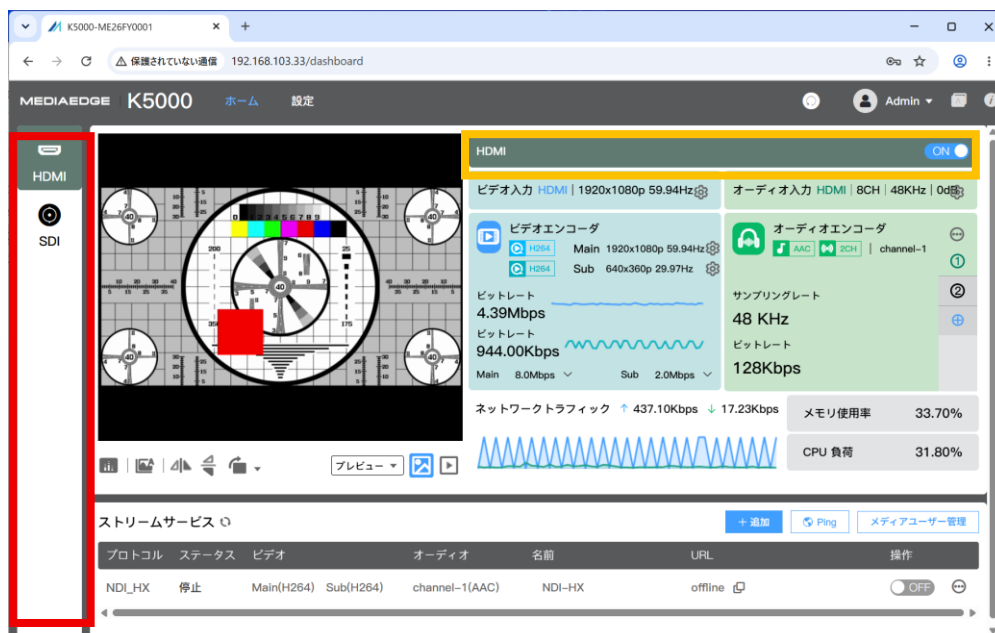


9.3. 入力選択

赤枠の部分で HDMI、SDI 信号の入力を選択、オレンジ枠の部分と ON・OFF の選択をします。

HDMI、SDI の両方を ON にすることもできます。

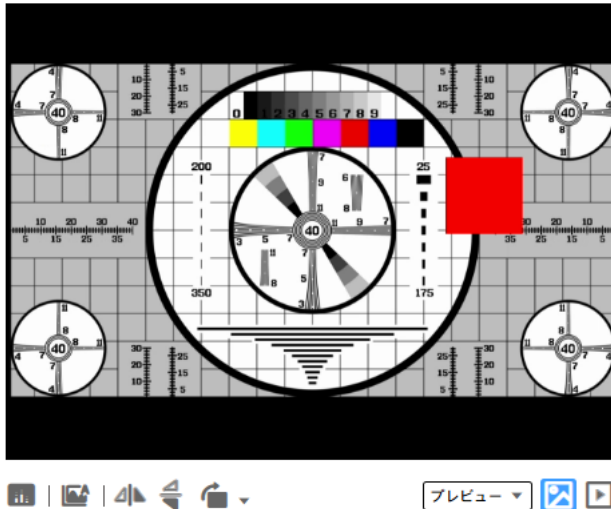
HDMI で 4K30P 信号を扱う場合は性能上の制限から SDI を OFF にしてご使用願います。



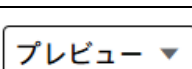
9.4. プレビューウインドウ

プレビューウインドウで入力信号をモニターできます。

また VU メーターの表示やオーバーレイ、画面の回転等が可能です。



9.4.1. プレビューウインドウの操作

	VU メーターを表示します エンコード結果には反映されません
	文字や映像などのオーバーレイ表示を行います エンコード結果に反映されます
	画面の左右反転を行います エンコード結果に反映されます
	画面の上下反転を行います エンコード結果に反映されます
	画面の回転を行います エンコード結果に反映されます
	他のアプリを動作させた時などプレビュー画面が停止した場合にプレビューデータの再読み込みを行います
	静止画（約 1 秒間隔）プレビューを行います
	動画プレビューを行います 本機やネットワークの負荷が少し高くなります

9.4.2. オーバーレイウインドウの操作

プレビューウインドウでオーバーレイ表示を選択するとオーバーレイウインドウが表示され、オーバーレイに使用するテキストや画像などの素材を選択できるようになります。

左上のチェック印でオーバーレイ開始、チェックをはずすとオーバーレイ終了となります。



9.4.3. オーバーレイ素材の追加

オーバーレイウインドウで素材の追加を選択すると、オーバーレイ形式（テキスト、日時、日付、時計、画像）や表示位置を選択するウインドウが表示されますので、必要なデータを入力します。

オーバーレイ形式に画像を選択した場合は画像名の選択画面に切り替わります。

画像は「画像の管理」メニューで本機にアップロードしておく必要があります。



9.4.4. 画像の管理

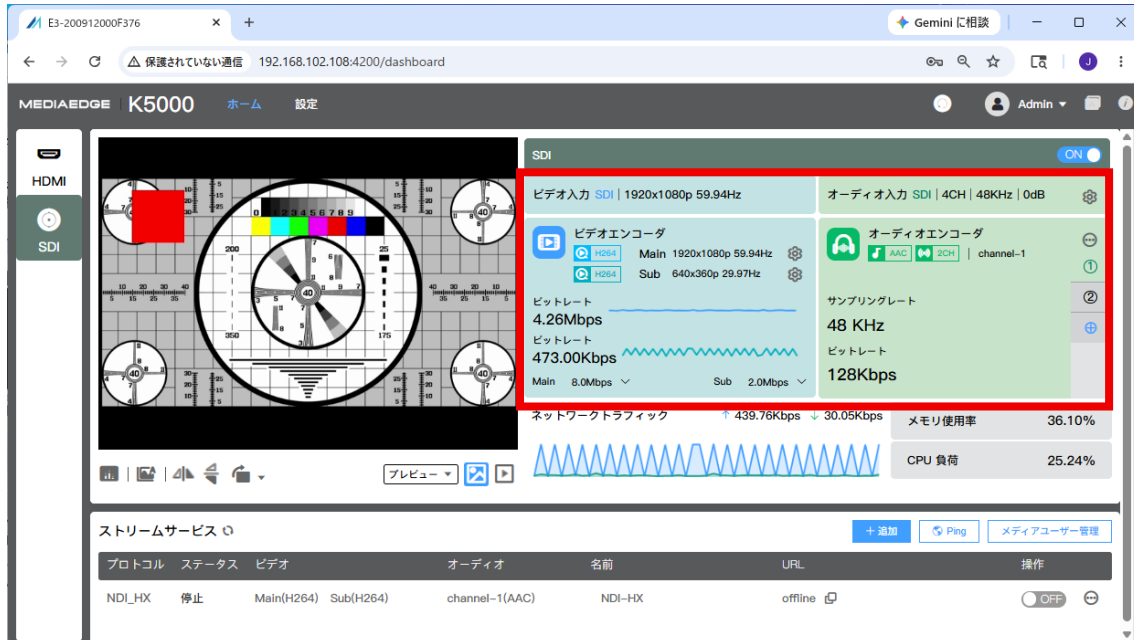
オーバーレイ形式選択ウインドウで「画像の管理」を選択すると画像の追加ウインドウが表示されますので、PC 上のファイルを選択してアップロードします。また本機の画像はファイル名では無く、新たに入力した「名前」で管理されますので入力してください。



9.5. エンコード設定ウインドウ

赤枠の部分がエンコード設定ウインドウです。

ビデオ、オーディオそれぞれのエンコードの設定を行います。



9.5.1. ビデオエンコードウインドウ

9.5.1.1. ビデオ入力ウインドウ（HDMI のみ設定可能です）

ビデオ入力 **HDMI** | 1920x1080p 59.94Hz

ビデオ入力設定

Quantization

Limited Range(16-235)

キャンセル

OK

HDMI 入力のレンジ設定を行います。

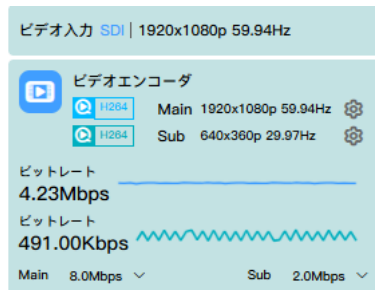
Limited Range（デフォルト）に設定すると入力信号のレンジを Limited(16-235)としてエンコードデータが生成されます。

Full に設定すると入力信号のレンジを Full(0-255) としてエンコードデータが生成されます。

SDI の場合は、常に入力信号のレンジ Full(0-255), Limited(16-235)に従ってエンコードデータが生成されます。

9.5.1.2. ビデオエンコーダの状態表示ウインドウ

SDIとHDMIのそれぞれの入力に対してMainとSubの2つのビデオエンコーダがあり、同時に4本のエンコードが可能です。



- 入力信号 SDI/HDMI と解像度
- 設定されているコーデック(H.264, H.265) と解像度の表示
- エンコーダ出力のビットレートとグラフの表示
- Main, Sub エンコーダのビットレートの変更
- 歯車アイコンでエンコーダの設定を行います

9.5.1.3. ビデオエンコーダ設定(Main)

ビデオエンコーダ設定(Main)	
エンコード	H.265 又は H.264 コーデックを選択できます
プロファイル	High, Main, Base Line を選択できます。 High が最も高画質ですが処理負荷が高くなります (H.265 は Main のみになります)
スケーリング	解像度変換を選択します (デフォルトは無変換)
色味	カラー、白黒を選択できます
フレームレート	フル ：入力信号のフレームレートを使用します※ 半分 ：入力信号のフレームレートが 50fps 以上の場合に半分のフレームレートに変換されます※ カスタム ：任意のフレームレートに変換できますが、内部のクロックを使用するため時間精度は高くありません ※インターレースの場合は下記の「デインターレースモード」の設定に従ってブ

	ログレッシブに変換されます
ビットレート制御	CBR 固定ビットレート 上限を制限し情報量が少ない場合はビットレートを下げる方向でエンコードします VBR 可変ビットレート
ビットレート	ビットレート制御を CBR に設定している場合のビットレートを設定します 状態表示ウインドウからも設定できます
最大ビットレート	ビットレート制御を VBR に設定している場合の最大ビットレートを設定します
QP レンジ	QP 値はビットレートを制御します。その範囲が広いほど、ビットレートの変動が大きくなります。QP が高い場合はビットレートが低く、QP が低い場合はビットレートが高くなります。 ビットレート制御を VBR に設定している場合に使用されます。
最小 IQP 値	基準となる I フレーム（キーフレーム）に適応される QP 値の下限値を設定します。キーフレーム発生時のデータ量のスパイクを抑制できます。 ビットレート制御を VBR に設定している場合に使用されます。
GOP サイズ	GOP のサイズ（I フレームが挿入されるフレーム間隔）を設定します
デインターレースモード	インターレースからプログレッシブへの変換方法を設定します

9.5.1.4. ビデオエンコード設定(Sub)

ビデオエンコード設定(Sub) ×

エンコード H.264

プロファイル Baseline

スケーリング デフォルト(640x360)

色味 カラー

フレームレート(fps) フル

ビットレート制御 CBR - 固定ビットレートモード

ビットレート(bps) 2.0M

GOP サイズ 80

キャンセル

OK

ビデオエンコード設定(Sub)	
エンコード	H.265, H.264, MJPEG コーデックを選択できます
プロファイル	High, Main, Base Line を選択できます。 High が最も高画質ですが

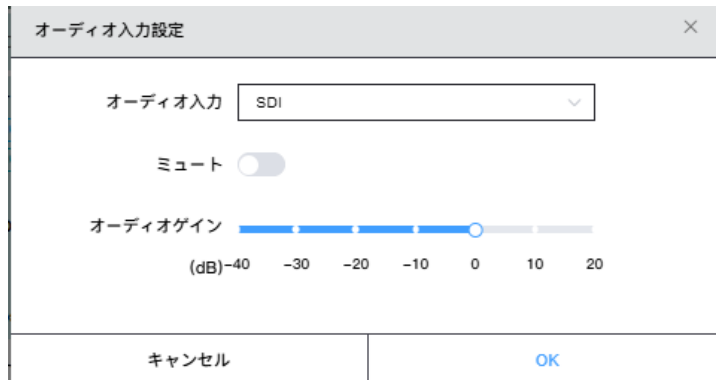
	処理負荷が高くなります (H.265 は Main のみになります)
スケーリング	解像度変換を選択します
色味	カラー、白黒を選択できます
フレームレート	フル ：入力信号のフレームレートを使用します 半分 ：入力信号のフレームレートが 50fps 以上の場合に半分のフレームレートに変換されます カスタム ：任意のフレームレートに変換できますが、内部のクロックを使用するため時間精度は高くありません
ビットレート制御	CBR 固定ビットレート 上限を制限し情報量が少ない場合はビットレートを下げる方向でエンコードします。 VBR 可変ビットレート
ビットレート	ビットレート制御を CBR に設定している場合のビットレートを設定します 状態表示ウィンドウからも設定できます
最大ビットレート	ビットレート制御を VBR に設定している場合の最大ビットレートを設定します
QP レンジ	QP 値はビットレートを制御します。その範囲が広いほど、ビットレートの変動が大きくなります。QP が高い場合はビットレートが低く、QP が低い場合はビットレートが高くなります。 ビットレート制御を VBR に設定している場合に使用されます。
最小 IQP 値	基準となる I フレーム（キーフレーム）に適応される QP 値の下限値を設定します。キーフレーム発生時のデータ量のスパイクを抑制できます。 ビットレート制御を VBR に設定している場合に使用されます。
GOP サイズ	GOP のサイズ（I フレームが挿入されるフレーム間隔）を設定します

9.5.2. オーディオエンコーダ

9.5.2.1. オーディオ入力の設定



歯車でオーディオ入力の設定画面に移行します



オーディオ入力	SDI/HDMI/Line in から選択します
ミュート	選択されたオーディオ入力をミュートします
オーディオゲイン	オーディオゲインを設定します

9.5.2.2. オーディオエンコーダの状態表示ウィンドウ

オーディオエンコーダは最大 4 本設定でき、ストリームサービスから選択して配信を行うことができます。また AAC においては各エンコーダあたり最大 4 チャンネルまで設定できます



- 入力信号 SDI/HDMI/Line in のオーディオ信号の状態表示
- 設定されているオーディオエンコーダの状態表示
- オーディオエンコーダの選択、設定、追加、削除

9.5.2.3. オーディオエンコーダの選択、設定、追加、削除



赤枠のタブ操作からエンコードの作成、設定などの操作が行えます。

(…)	選択されたオーディオエンコードの設定および削除を行います
①	設定するオーディオエンコードを選択します
②	設定するオーディオエンコードを選択します 画面は②が選ばれている状態です
(+)	③④を増やすことが出来ます

9.5.2.4. オーディオエンコード設定

オーディオエンコード設定

×

* 名前

channel-1

エンコード

AAC

サンプリングレート

自動

ビットレート

128 Kbps

チャンネル

2

オーディオチャンネルマッピング

キャンセル

OK

オーディオエンコード設定	
名前	オーディオエンコードは名前で管理されますので必ず名前をつけてください
エンコード	オーディオエンコード形式を選択します (AAC,G711)
サンプリングレート	サンプリングレートを選択します エンコード形式が AAC の場合に設定します
ビットレート	ビットレートを選択します エンコード形式が AAC の場合に設定します
チャンネル	このオーディオエンコードで扱うチャンネル数を選択します エンコード形式が AAC の場合に設定します
オーディオチャンネルマッピング	チャンネルのマッピング設定ダイアログを開きます エンコード形式が AAC の場合に設定します
リサンプル	音声の変換方式を選択します 「速さ優先」は CPU 負荷と遅延を低減し、「品質優先」はノイズを抑えて音質を向上させます エンコード形式が G.711 の場合に設定します
G.711	音声の圧縮方式を設定します エンコード形式が G.711 の場合に設定します

9.5.2.5. オーディオチャンネルマッピング

オーディオチャンネルマッピング ×

トラックタイプ シングルトラック ▼

エンコードチャンネル

1

2

3

4

入力チャンネル

1

2

3

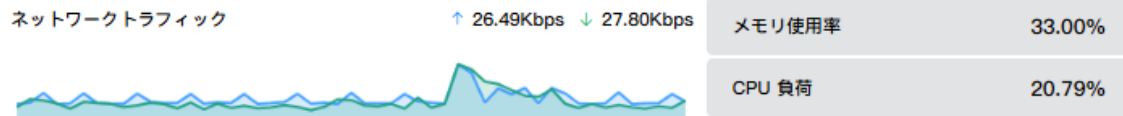
4

キャンセル

OK

オーディオチャンネルマッピング	
トラックタイプ	オーディオストリームを 1 つのトラック(シングル)にするか複数のトラック（マルチ）にするかを選択します マルチトラックは SRT、TS-UDP、RTP のストリームサービスのみサポートしています
エンコードチャンネル	エンコードするチャンネルにオーディオ入力チャンネルを割り付けます

9.6. 状態表示ウインドウ



↑(水色)	送信ストリームのトラフィックを表示します
↓(緑色)	受信ストリームのトラフィックを表示します
メモリ使用率	システムのメモリ使用率を表示します
CPU 負荷	CPU の負荷を表示します

9.7. ストリームサービスウインドウ

ストリームサービス							+ 追加	Ping	メディアユーザー管理
プロトコル	ステータス	ビデオ	オーディオ	名前	URL	操作			
NDI_HX	停止	Main(H264)	Sub (H264)	channel-1(A AC)	NDI-HX	offline	OFF		

	ストリームサービスウインドウ画面を更新します
+ 追加	ストリームサービスを追加します (サービス追加の画面が起動します)
Ping	ネットワーク機器に Ping を実行します
メディアユーザー管理	メディアユーザーの管理を行います
OFF	ストリームの ON/OFF を行います
	プロトコルの設定・削除を行います

9.7.1. PING

接続しているネットワーク機器に Ping を実行し、接続状態を確認出来ます。

The screenshot shows a 'Ping' dialog box with a list of IP addresses: 192.168.0.254, 192.168.1.254, and 192.168.2.254. A 'Ping IP アドレス' field contains 192.168.103.104. The status shows 'Ping 結果: 到達しました。パケットロス: 0%' and a 'Ping' button.

Ping IP アドレス	Ping を実行するネットワーク機器の IP アドレスを指定します
Ping	Ping を実行します ダイアログ上に結果が表示されます

9.7.2. メディアユーザー管理

RTSP 認証で使用するユーザーの作成、削除が行えます
メディアユーザーとログイン時のユーザーは別扱いとなります

メディアユーザー管理

+ 追加

番号	ユーザー名	操作
1	admin	削除

キャンセル

OK

9.7.3. ストリーミングサービスの追加・変更

ストリーミングサービスの追加、設定変更を行います

ストリーミングサービスを追加

プロトコル

RTSP

* 名前

SDI-RTSP

ビデオ

Main(H.264) / Sub(H.264)

オーディオ

channel-1(AAC)

サービスポート番号

554

トンネルポート番号

0

セッション ID

ch01

サブストリーム セッション ID

キャンセル

OK

プロトコル	RTSP, RTMP/RTMPS, SRT, HLS, TS-UDP, RTP のプロトコルを指定します
名前	ストリームは名前で管理されますので必ず名前を登録してください
ビデオ	使用するビデオエンコードを指定します
オーディオ	使用するオーディオエンコードを指定します

名前	必ず入力してください 例) HDMI-RTSP
ビデオ	使用するビデオエンコードを指定します 映像を使用しない場合は「映像なし」を選びます
オーディオ	使用するオーディオエンコードを指定します 音声を使用しない場合は「音声なし」を選びます
サービスポート 番号	標準は 554 ですが、本機の他のストリームで使用されている（OK を押して競合のメッセージが出る）場合はポート番号を変更してください
トンネルポート 番号	デフォルトの 0 は HTTP トンネルが無効です
セッション ID	メインストリームのセッション ID を指定します （URL の最後に追加されます）
サブストリーム セッション ID	サブストリームのセッション ID を指定します （URL の最後に追加されます）

RTSP 認証	受信側と RTSP 認証を行う場合に ON にします 受信側には「メディアユーザー管理」で指定したユーザー名とパスワードを設定、 入力します。 ログインユーザー、パスワードとは異なります
マルチキャスト	マルチキャスト配信を行うときに ON にします
マルチキャスト IP アドレス	マルチキャスト IP アドレスを指定します 224.0.0.0 ～239.255.255.255 を使用します
TTL	TTL の値でストリームの到達範囲を制限します
ポート番号	0～65535 の間で範囲を指定します 用途によって範囲を変更します

【注意】RTP over RTSP および RTSP over HTTP のご使用はお控えください。

転送プロトコルに TCP を使用する RTP over RTSP および RTSP over HTTP は、長時間連続で使用した場合に配信が不安定になる（映像の遅延や切断など）ことが確認されています。

なお、転送プロトコルの指定はサーバー側（本機）ではなくクライアント側で設定する必要があります。安定した配信を行うため、クライアント側の設定で UDP を指定してください。

名前	必ず入力してください 例) HDMI-SRT
ビデオ	使用するビデオエンコードを選択します 映像を使用しない時は「映像なし」を選びます

オーディオ	使用するオーディオエンコードを選択します 音声を使用しない時は「音声なし」を選びます
接続モード	SRT の接続モード Listener, Caller, Rendezvous を選択します
パブリック IP アドレス	接続モードが Caller, Rendezvous の時に接続する機器の IP アドレスを入力します
リスナー側のポート番号	接続モードが Listener の時のポート番号を指定します
レイテンシ	SRT 処理における遅延量（=バッファのサイズ）を指定します
暗号化モード	ストリームを暗号化する場合に AES-128, AES-192, AES-256 の暗号化方式を設定します 暗号化を使用しない場合は None にします
AES 暗号キー	暗号化を使用する場合の暗号キー（パスフレーズ）を入力します 10～79 文字の大文字、小文字、数字、特殊文字が使用できます
SRT ストリーム ID	一つの IP アドレスとポートを共有して複数の映像、音声配信する場合に設定します。 最大 512 文字 英数字と記号を使用できます
最大帯域幅	帯域幅の上限を設定します -1：無制限 0：データレートに自動追従 0 より大きい値：指定した値(B/s)に制限
NULL パケット	映像のデータ量を均一化するために NULL パケットを挿入する場合に設定します
サービス名	任意の名前を設定します
サービスプロバイダ名	任意の名前を設定します
PCR サイクル	TS の PCR（Program Clock Reference）の挿入間隔を設定します
ストリーム ID	TS のストリームを認識するための数値を設定します
PMT start PID	TS における PMT（Program Map Table）の開始 PID を設定します
Stream start PID	TS における映像ストリームを認識するための PID を設定します
テーブルのバージョン	TS における PSI/SI 制御情報の更新の通知に使用します

9.7.3.3. RTMP/RTMPS 配信設定

変更 HDMI-RTMP

×

プロトコル

RTMP/RTMPS

▼

* 名前

HDMI-RTMP

ビデオ

Main(H.264/1920x1080)

▼

オーディオ

channel-1(AAC)

▼

* ターゲット IP アドレス

rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/XXXXXX

⊙

ユーザー名

入力してください

パスワード

入力してください

RTMP の古いバージョンを有

OFF

効にします

RTMP で正常に配信できない場合、古いバージョンを試してみてください。

接続タイムアウト (秒)

−

15

+

再接続の間隔 (秒)

−

3

+

キャンセル

OK

プロトコル	RTMP/RTMPS
名前	必ず入力してください 例) HDMI-RTMP
ビデオ	使用するビデオエンコードを選択します 映像を使用しない時は「映像なし」を選びます
オーディオ	使用するオーディオエンコードを選択します 音声を使用しない場合は「音声なし」を選びます
ターゲット IP アドレス	YouTube 等に配信する IP アドレスを入力します YouTube の例 : XXXXXX はストリームキー rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/XXXXXX
ユーザー名	配信先がパスワード認証を要求している場合に入力します
パスワード	配信先がパスワード認証を要求している場合に入力します
RTMP の古いバージョン	レガシーな RTMP 通信方式を使用します 通常は無効のままご使用ください

	古い配信サーバーとの接続互換性の確保や、既存環境の動作維持が必要な場合のみ有効にします
接続タイムアウト	配信先の応答が無くなってから接続を切るまでの時間を設定します
再接続の間隔	接続タイムアウトが発生してから再接続を行うまでの時間を設定します

9.7.3.4. HLS 配信設定

ストリーミングサービスを追加 ×

プロトコル HLS

* 名前 HDMI-HLS

ビデオ Main(H.264)

オーディオ channel-1(AAC)

接続タイプ SERVER

* セッション ID 入力してください ⓘ

* セグメント数 5

セグメントの長さ (秒) 5

キャンセル
OK

名前	必ず入力してください 例) HDMI-HLS
ビデオ	使用するビデオエンコーダを選択します 映像を使用しない時は「映像なし」を選びます
オーディオ	使用するオーディオエンコーダを選択します 音声を使用しない場合は「音声なし」を選びます
接続タイプ	クライアントからの接続を待ち受ける「SEVER」または外部サーバーへアップロードする「PUSH」のタイプを選択します
プッシュ方式	接続タイプが「PUSH」タイプの場合にメディアをアップロードする HTTP Method を「POST」、「PUT」から選択します
メディアプレイリスト URL	接続タイプが「PUSH」タイプの場合にメディアをアップロードするサーバーURL を設定します
セッション ID	配信セッションを識別するための ID を設定します
セグメント数	プレイリスト内に維持する動画ファイルの数を設定します
セグメントの長さ	分割する動画ファイル 1 本の長さを秒単位で設定します

9.7.3.5. TS-UDP 配信設定

ストリーミングサービスを追加 ×

プロトコル TS-UDP

* 名前 HDMI-TS-UDP

ビデオ Main(H.264)

オーディオ channel-1(AAC)

* ターゲット IP アドレス ⓘ

ターゲットポート番号 − 1026 +

UDP ポートをバインドする − 0 + ⓘ

Time To Live (TTL) − 127 + ⓘ

高度なオプション

以下は詳細設定です。どのような設定を使用すればよいかわからない場合は、デフォルト設定を使用してください。

NULL パケット 使用しない

サービス名 Encoder

サービスプロバイダ名 Encoder device

PCR サイクル(ミリ秒) − 20 + (1-100)

ストリーム ID − 101 + (1-65535)

PMT start PID − 480 + (16-7936)

Stream start PID − 481 + (32-3840)

テーブルのバージョン − 6 + (0-31)

キャンセル
OK

名前	必ず入力してください 例) HDMI-TS-UDP
ビデオ	使用するビデオエンコードを選択します 映像を使用しない時は「映像なし」を選びます
オーディオ	使用するオーディオエンコードを選択します 音声を使用しない場合は「音声なし」を選びます
ターゲット IP アドレス	接続先の IP アドレスを入力します マルチキャストを使用する場合は 224.X.X.X から 239.X.X.X を使用します

ターゲットポート番号	接続先のポート番号を入力します
UDP ポートをバインドする	UDP ソケットにバインドするポートを設定します 0 を設定するといシステムが動的ポートを割り当てます
Time to Live	マルチキャストパケットが通過できるルーターの最大数を指定します
NULL パケット	ビットレートを均一化するために挿入する NULL パケットの割合を指定します
サービス名	動画配信サービスの名前を任意で入力します
サービスプロバイダ名	動画配信サービス提供者の名前を任意で入力します
PCR サイクル	PCR 挿入の間隔を指定します
ストリーム ID	接続先を特定するための ID
PMT Start PID	Program Map Table を割り当てるパケット識別子
Stream Start PID	先頭パケットの識別子の開始番号
テーブルのバージョン	格納されているテーブル内容のバージョン

9.7.3.6. RTP 配信設定

ストリーミングサービスを追加

プロトコル
RTP

* 名前
HDMI-RTP

ビデオ
Main(H.264)

オーディオ
channel-1(AAC)

* ターゲットIPアドレス

* ターゲットポート番号
1026

ペイロードタイプ
TS

Time To Live (TTL)
127

高度なオプション

以下は詳細設定です。どのような設定を使用すればよいかわからない場合は、デフォルト設定を使用してください。

NULL パケット
使用しない

サービス名
Encoder

サービスプロバイダ名
Encoder device

PCR サイクル(ミリ秒)
20
(1-100)

ストリーム ID
101
(1-65535)

PMT start PID
480
(16-7936)

Stream start PID
481
(32-3840)

テーブルのバージョン
6
(0-31)

キャンセル

OK

名前	必ず入力してください 例) HDMI-RTP
ビデオ	使用するビデオエンコードを選択します 映像を使用しない時は「映像なし」を選びます
オーディオ	使用するオーディオエンコードを選択します 音声を使用しない場合は「音声なし」を選びます
ターゲット IP アドレス	接続先の IP アドレスを入力します マルチキャストを使用する場合は 224.X.X.X から 239.X.X.X を使用します
ターゲットポート番号	接続先のポート番号を入力します
ペイロードタイプ	TS のみの対応となります
Time to Live	マルチキャストパケットが通過できるルーターの最大数を指定します
NULL パケット	ビットレートを均一化するために挿入する NULL パケットの割合を指定します
サービス名	動画配信サービスの名前を任意で入力します
サービスプロバイダ名	動画配信サービス提供者の名前を任意で入力します
PCR サイクル	PCR 挿入の間隔を指定します
ストリーム ID	接続先を特定するための ID
PMT Start PID	Program Map Table を割り当てるパケット識別子
Stream Start PID	先頭パケットの識別子の開始番号
テーブルのバージョン	格納されているテーブル内容のバージョン

9.8. タイトルバー



	システムの再起動を行います
Admin ▾	ログインユーザーのパスワード変更、ログアウトを行います
	使用する言語を選択します
	シリアル番号等の情報を表示します

9.9. 設定

9.9.1. 基本設定



デバイス名

ネットワーク上のデバイス名を設定します

言語

Web コンソールで使用する言語を選択します

9.9.2. ネットワーク設定

9.9.2.1. イーサネット

IP アドレスなどイーサネットの設定を行います。

MEDIAEDGE K5000 ホーム 設定

基本設定
ネットワーク設定
ユーザー管理
NDI 設定
時刻とタイムゾーン
Onvif サービス
EDID 設定
無信号画面と一括設定
システム設定
ログ

ネットワーク設定

イーサネット 詳細設定 SNMP

イーサネット: 接続中
MAC: 18:C3:F4:21:D2:A8
ゲートウェイ: 192.168.10.254
IP: 192.168.10.101

IP アドレスタイプ: DHCP

MAC: 18:C3:F4:21:D2:A8

IP: 192.168.10.101

サブネットマスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: 192.168.10.254

DNS: 192.168.10.254

Negotiation: Auto 100M/10M

適用

メンテナンスアドレス

ステータス: OFF

IP: 192.168.10.168

サブネットマスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: 入力してください

適用

IP アドレスタイプ

IP アドレスの取得方法を選択します。[DHCP] を選択した場合、DHCP サーバーから自動取得します。[固定] を選択した場合、[IP]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]、[DNS] の設定が可能となります。

IP

IP アドレスを設定します。[IP アドレスタイプ] で [DHCP] を選択した場合、DHCP サーバーから自動取得します。

サブネットマスク

サブネットマスクを設定します。[IP アドレスタイプ] で [DHCP] を選択した場合、DHCP サーバーから自動取得します。

ゲートウェイ

デフォルトゲートウェイを設定します。[IP アドレスタイプ] で [DHCP] を選択した場合、DHCP サーバーから自動取得します。

DNS

DNS サーバーを設定します。複数の DNS サーバーを設定する場合、サーバーアドレスをセミコロン区切りで指定してください。

例) 192.168.0.254; 192.168.1.254

[IP アドレスタイプ] で [DHCP] を選択した場合、DHCP サーバーから自動取得します。

Negotiation

LAN の伝送速度と通信モードを自動的に設定するオートネゴシエーション機能の種類を設定します。

メンテナンスアドレス

常に使用できる固定 IP アドレスを指定することができます。

ステータス

メンテナンスアドレスの [ON]、[OFF] を切り替えます

IP

メンテナンスアドレスの IP アドレスを設定します。

サブネットマスク

メンテナンスアドレスのサブネットマスクを設定します。

ゲートウェイ

メンテナンスアドレスのデフォルトゲートウェイを設定します。

9.9.2.2. 詳細設定

HTTP/HTTPS 設定

HTTP、HTTPS で使用するポート番号を設定します
 チェックボックスを外すことでアクセスを[無効]に設定することができます

SSL 証明書をアップロード

HTTPS 通信で使用するカスタム SSL 証明書及び署名鍵ファイルを設定します
 信頼できる認証局から発行された SSL 証明書を使用することでセキュリティを強化することができます。

ビデオプレビューポート設定

プレビューウィンドウで使用するポートの範囲を設定します

9.9.2.3. SNMP

SNMP（Simple Network Management Protocol）は、ルーターやスイッチ、サーバーなどのネットワーク機器を監視・制御するための標準プロトコルです。

SNMP

SNMP 機能の [有効] [無効] を設定します

Type

使用する SNMP のバージョンを [SNMP v2]、[SNMP v3] から設定します

ポート番号

待ち受けポート番号を設定します。

チーム名

SNMPv2 で使用するコミュニティ名（グループ名）を入力します。

ユーザー名

SNMPv3 の認証で使用するユーザー名を入力します。

認証キー

SNMPv3 の SHA 認証で使用するパスワードを入力します。

暗号化キー

SNMPv3 の通信内容を暗号化・復号するための AES キーを入力します。

連絡先

機器の管理者名や連絡先（メールアドレス等）を任意で入力します。

デバイス名

ネットワーク上で本機器を識別するための名称（ホスト名等）が表示されています。基本設定の[デバイス名] が使用されます。

説明

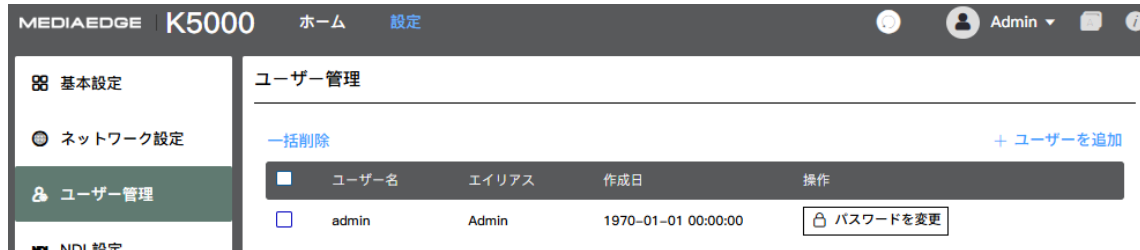
機器の説明を設定できます。

場所

機器の設置場所を示す内容を示します。時刻とタイムゾーンの [場所とリージョン] 設定の値が使用されます。

9.9.3. ユーザー管理

K5000 を運用するユーザーの追加、削除などの管理を行います



+ユーザーを追加

[ユーザーを追加] ダイアログによりユーザーを追加します。

[エイリアス] 設定は画面上部のナビゲーションバー表示に使用されます。

ユーザーを追加

* ユーザー名

* エイリアス

* 新しいパスワード

パスワードの強度

弱い

真ん中

強力な

大文字と小文字 + 数字 + 記号の組み合わせを使用することをお勧めします

* 再入力

キャンセル

OK

一括削除

チェックが付いているユーザーを一括で削除します。

管理者ユーザー [admin] でログイン時のみ他のユーザーを削除します。

パスワードを変更

[パスワードを変更] ダイアログから対象ユーザーのパスワードを変更します。

パスワードを変更

* ユーザー名

* 元のパスワード

* 新しいパスワード

パスワードの強度

弱い

真ん中

強力な

大文字と小文字 + 数字 + 記号の組み合わせを使用することをお勧めします

* 再入力

キャンセル

OK

削除

対象のユーザーを削除します。

管理者ユーザー [admin] でログイン時のみ他のユーザーを削除します。

9.9.4. NDI 設定

NDI ブリッジの設定を行います。

MEDIAEDGE K5000 ホーム 設定

Admin

基本設定
ネットワーク設定
ユーザー管理
NDI 設定
時刻とタイムゾーン
Onvif サービス
EDID 設定
無信号画面と一括設定
システム設定
ログ

NDI 設定

NDI ブリッジ

有効にすると、ユーザーはローカルの NDI ソースを WAN 接続を通して、NDI Studio Monitor などのツールがインストールされたりリモートエンドポイントに送信できます。この接続には、NDI Studio Monitor などのツールで NDI ブリッジサービスをアクティブにし、クライアントの公開アドレスとアクセス認証キーを取得する必要があります。

無効 ☐ OFF

* ブリッジ名

* サーバー IP アドレス

* サーバーポート

暗号化キー

適用

9.9.5. 時刻とタイムゾーン

NTP サーバー情報や、内部時計の設定を行います

9.9.5.1. 時刻

デバイスの時刻

現在のデバイスの時刻が表示されています。

時刻を指定

時刻の設定方法を以下の3つから選択します。

- PC の時刻に合わせる
- 手動設定
- NTP サーバーに同期する

[NTP サーバー] に同期する NTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。複数のサーバーを入力する場合は間にスペース(空白)を入れてください。

保存後は[再起動]を行ってください。

9.9.5.2. 場所とリージョン

使用するリージョンをメニューまたは地図上で選択してください。

※ 保存後は[再起動]を行ってください。

9.9.6. ONVIF サービス

ONVIF 使用時の設定を行います

Onvif サービス

ONVIF は標準化フォーラムで、IP ベースの物理的セキュリティ製品の効果的な相互運用のためにインターフェースの規格化を進めています。Onvif サービスを有効にすると、Onvif 規格に対応するマネジメントシステムでは自動的にデバイスが検出され、各種パラメーターの設定や映像の確認ができます。

Onvif サービス

サーバーを有効にする

* ポート番号

検出可能にする

場所

デバイス名

識別認証

管理者パスワード

サーバーを有効にする

ONVIF サービスの [有効]、[無効] を選択します。

ポート番号

Onvif サービスにアクセスするためのポート番号を設定します。

検出可能にする

Onvif プロトコルで本体デバイスの検出を[無効]、[有効]から選択します。

場所

任意の文字列が入力できます。Onvif を自動検索できるソフトなどで機器の設置場所を表示するとき、ここに設定した文字列を表示します。

デバイス名

任意の文字列が入力できます。空欄にすると機器につけられたデフォルトのデバイス名が使用されます。

識別認証

[On], [Off] から選択します。

管理者パスワード

管理者ユーザー [Admin] のパスワード変更するとき入力します。Onvif Tool で他のユーザーの管理を行います。

[適用] ボタンを押すと設定が反映されます。

9.9.7. EDID 設定

HDMI 入力機器（PC やブルーレイプレーヤー等）と接続する際、機器間で解像度やフォーマットの情報を伝達するためのデータ構造が EDID（Extended Display Identification Data）です。送信側（入力機器）は、受信側（本機）から読み取った EDID の情報に基づいて、出力する映像の解像度やフレームレートを自動決定します。

基本設定

ネットワーク設定

ユーザー管理

NDI 設定

時刻とタイムゾーン

Onvif サービス

EDID 設定

無信号画面一括設定

システム設定

EDID 設定

☒ デフォルト
☐ 4KP30 優先設定
☐ 1080P60 優先設定
☐ カスタム

offset	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
00	00	FF	FF	FF	FF	FF	FF	00	26	85	03	00	42	16	03	00
10	0B	21	01	03	80	A0	5A	78	EA	67	A1	A5	55	4D	A2	27
20	0E	50	54	21	08	00	01	01	01	01	01	01	01	01	01	01
30	01	01	01	01	01	01	00	00	00	10	00	00	00	00	00	00
40	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	10	00	00	00	00
50	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	FC	00	45
60	4E	43	4F	44	45	52	20	20	20	20	20	00	00	00	00	10
70	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	01	01
80	02	03	39	F1	54	5F	5E	5D	90	1F	22	21	20	05	14	04

書き出し

本機能では、用途に応じて EDID の応答モードを切り替えることができます。

- デフォルト
優先解像度の指定は行われません。
- 4KP30
4KP30 (3840x2160 30 FPS) が優先されます。
- 1080P60
1080P60 (1920x1080 60 FPS) が優先されます。
- カスタム
[取り込み] ボタンからカスタム EDID ファイルをアップロード、使用することができます。
[リセット] ボタンでアップロードした EDID をデフォルトの状態に戻します。

HDMI 入力に接続したプレーヤー等が 4K 解像度対応の場合、HDMI EDID を読み込んで自動的に 4K 解像度を出力することがあります。

2K 解像度で使用したい場合は 1080P60 優先設定をチェックしてご使用ください。

9.9.8. 無信号画面と一括設定

9.9.8.1. 無信号画面

SDI、HDMI 入力に信号が無い場合に表示(エンコード)される画像ファイルを選択します



[ファイルを選択] ボタンで表示されるダイアログから設定する PNG 画像ファイルを選択します。

[リセット] ボタンで設定した画像をデフォルト「NO VIDEO」の状態に戻します。

9.9.8.2. 一括設定

本機に設定した内容を項目別を選択して、内部ストレージまたは PC のファイルに保存し、呼び出して一括で設定を行う事ができます



設定データの保存

[設定データの保存] ボタンで表示されるダイアログから内臓ストレージまたは PC ファイルに設定を保存できます。



- **設定データ名**

内部ストレージに保存する場合の設定データ名、PC ファイルに保存する場合のデフォルトファイル名として使用されます。

- **保存項目の選択**

保存する設定項目を選択します。

- **内部ストレージに保存**

内臓ストレージに保存します。

- **PC ファイルに保存 :**

PC ファイルに保存します。

ファイルから一括設定

[ファイルを選択] ボタンで表示されるダイアログから PC ファイルとして保存した設定ファイルを選択し、[ファイルから一括設定] ボタンで選択した一括設定を適用します。

内部ストレージから一括設定

[設定データ] から 内部ストレージに保存した設定データを確認することができます。

- 設定
[設定] ボタンで適用できます。
- ファイルに保存
[ファイルに保存] ボタンで PC ファイルとして保存します。
- 削除
[削除] ボタンで設定データを削除します。

9.9.9. システム設定

9.9.9.1. API 認証

API 認証を行う場合に ON にします。

9.9.9.2. 定期再起動

定期再起動を行う場合の開始時刻と間隔を指定します。

システムの安定稼働のために定期再起動の設定をお勧めいたします

- **定期再起動する**
定期再起動を行うか否かの設定を行います。
- **開始時刻**
開始日と時刻を設定します。
- **再起動の周期**
周期を [毎日]、[毎週]、[毎月] から選択します。
- **頻度**
繰り返す回数を設定します。

[OK] ボタンで設定が適用されます。

9.9.9.3. 初期化



工場出荷時の設定に初期化します。

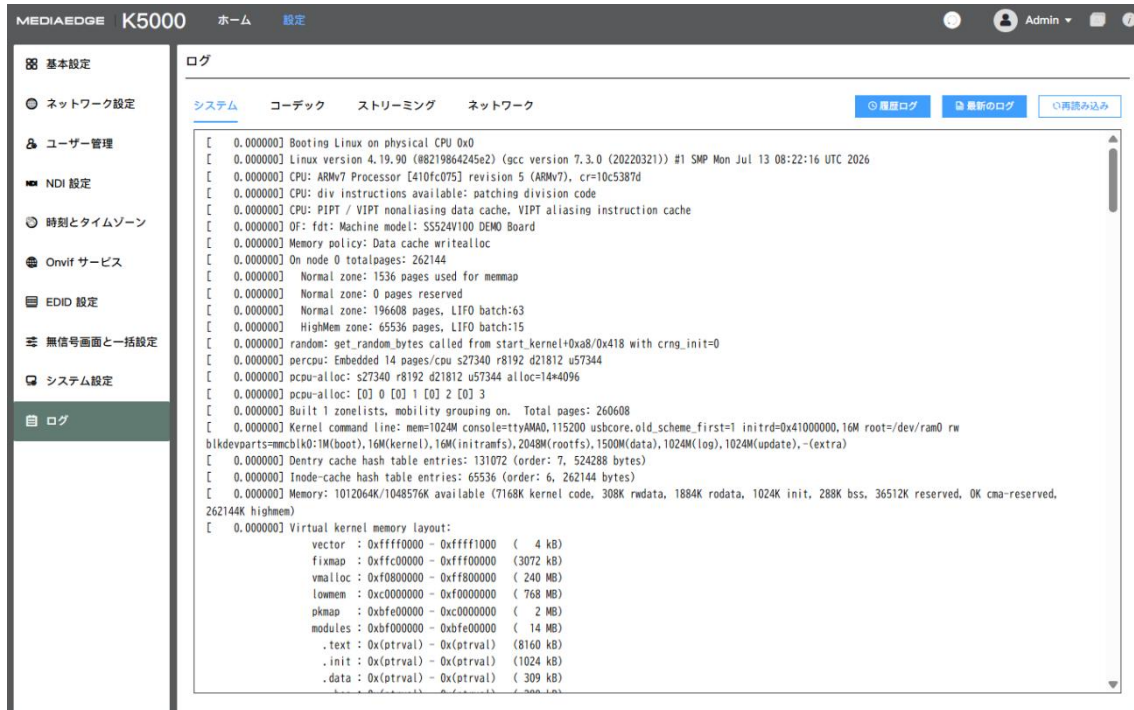
システムの安定稼働のために定期再起動の設定をお勧めいたします。

9.9.9.4. ファームウェア更新

ファームウェアのアップデートを行います。

ファームウェアファイルを [ファイルを選択] から選択し、[ファームウェア更新] ボタンをクリックすることでアップデートが開始されます。

9.9.10. ログ



以下、カテゴリーのログを上部タブのクリックで切り替えて表示できます。

システム	OS に関するログです
コーデック	エンコーダの動作に関連するログです
ストリーミング	配信に関するログです
ネットワーク	ネットワークの通信に関するログです

以下、操作が可能です。

履歴ログ	過去のログをダウンロードします
最新のログ	最新のログをダウンロードします
再読み込み	最新のログを更新します

ログの内容に ERROR や WARNING 等の表記がありましても実動作には影響のないものが大半です

10. 保証

10.1. 保証規定

1. 本保証規定は、取扱説明書等に記載された使用方法や注意事項に従った、正常な使用状態のもとで保証期間内に万一故障が発生した場合の無償修理をお約束するものです。
2. 本製品の保証期間は、弊社出荷日の翌々月 1 日を起算日として 1 年間となります。5 年保証製品など、保証期間を別途定めているものについては、その期間を保証期間とします。保証期間の開始日、終了日は、ユーザー登録ページにてユーザー登録を行うことでダウンロードできる保証書に記載されています。
3. 次にあげる項目のみに限りませんが、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。
 - i. 保証書のご呈示がない場合。
 - ii. 保証書に記載されたシリアルナンバーや製品名、保証期間などの字句の不当な書き換えが行われたと考えられる場合。
 - iii. 取扱説明書等に記載された使用方法又は注意事項に反するお取り扱いが認められた場合。
 - iv. 台風、水害、地震、落雷などの自然災害及びその二次災害、火災、公害や異常電圧による破損や故障、水没、紛失、盗難などの場合。
 - v. お買い上げ後の輸送、移動時、持ち運び時の落下や衝撃、悪条件下での放置など、お取り扱いが不適当なため生じた破損や故障、水没、紛失、盗難などの場合。
 - vi. 正常な使用状態であっても消耗部品が自然消耗、磨耗、劣化した場合。
 - vii. 本製品に接続された他の機器が原因で生じた故障及び損害の場合。
4. 修理によって交換された故障部品や故障製品の所有権は当社に帰属するものとします。
5. 本保証書は国内においてのみ有効です。

ユーザー登録や製品保守に関する情報は下記をご覧ください

<https://www.mediaedge.co.jp/support/warranty/mediaedge-seihinshoshu/>

11. 修理のご依頼について

ご使用中の不具合や故障が発生した場合のお問い合わせ先は、ご購入いただいた際の購入先によってお問い合わせ先が異なります。

11.1. システムや製品を「販売店」から納めさせていただいた場合

保守、サポートに関して、お客様と販売店との間で契約を結ばれている場合がございます。当社へお問い合わせいただく前に、販売店までご連絡ください。

11.2. システムや製品を「当社」から納めさせていただいた場合、その他の場合

下記の「修理依頼フォーム」よりお申し込み願います

<https://www.mediaedge.co.jp/support/inquiry>